

平成二十九年 段位検定試験発表

総評

東山右徹

審査は、あらかじめ選任された九名の審査委員によって、一作品ずつの鑑別が行われ、結果について理事会に諮り、以下のとおり決定されました。

今回の受験者総数は二二三名で、そのうちAクラスは、毛筆の部が二十六名の受験で十一名の方が合格されました。また硬筆の部は、六名の受験で二名の方が合格され、それぞれ本院の師範に認定されました。

Bクラスについては、毛筆の部が三十名の受験で漢字二十二名、かな二十名の方が合格され、硬筆の部は十名の受験で、漢字三名、かな四名の方が合格され、師範に認定されました。

A・Bクラスにおいて見事合格された皆さんは、いづれも長年にわたる研鑽の賜であり、心よりお喜びを申し上げます。残念ながら合格に達しなかった方々においても、日頃の努力の成果は確実に表れており、あと一息という作が多数ありました。

どうしても得手、不得手の科目が見られ、特に楷書、隷書に稍元気がない面がありましたので不得手と思う物こそ練磨に努めていただきたいと思えます。また、毎月の条幅作品への取り組み度

合によって、大きな差が表れており、日頃の精進の大切さを物語っていました。Cクラス以下の成績については、月例競書等の状況も加味し、各々の段位、級位が認定されました。

またCクラスも条幅作品となりますが、試験時だけのわか仕込みでは、なかなか難しさがありますので、早くからの条幅作への取り組みをされると良いと思います。

D・Eクラスについては、半紙での地味な練習の継続ですが、今後の飛躍に大きな期待を寄せている作が数多く見られ、実に頼もしい限りでした。

今後とも、書を好きになり、良い作品をたくさん観て、できれば楽しく切磋琢磨する仲間を持つと、より上達への道となると思えます。

受験に際し、要綱の定めが守られていなかったり、誤字等が見えられたので、事前に良く調べることも忘れないうで欲しいと思います。

ここに発表された段級位は、変更のあった人のみで十二月課題(十一月十九日締切分)から適用します。また、この成績は、十二月号に発表された規定、かなの昇級分を加えてありますので、重ねて昇級しません。

Table of examination results for Kanji (漢字) and Hard Pen (硬筆) sections, listing names and their respective grades.

Main table of examination results for Soft Pen (軟筆) and Kanji (漢字) sections, listing names and their respective grades.